

銀行図書館

銀行図書館は、1897年に東京銀行集会所内に開設された「経済文庫」を前身としている。現在は、東京に本支店がある銀行が加盟する社団法人東京銀行協会が運営しており、終戦直後から1960年までの閉鎖期間があるが、歴史の古い図書館である。協会の調査研究のために経済・金融関係の資料を収集しているが、これらを広く協会員以外の研究者等にも提供している。2002年度の9,431人の利用者のうち、4分の1は外部からである。

蔵書数は、2003年3月現在、約14万6千冊、雑誌約1,000誌である。経済・金融関係の基本図書や統計書の他、金融機関の発行する各種刊物や既に消滅した銀行を含む全国の銀行史、海外の銀行協会・中央銀行・金融機関の刊物を所蔵しているのが特色である。戦前に収集した約2万冊の資料の中には現在入手困難なものも多く含まれており、今でも「経済文庫」というコレクション名が付けられ保存されている。



場所は東京駅にほど近い丸の内オフィス街の一角にある銀行会館の7階に位置し、開館時間は月曜から金曜までの9:30～16:30、閲覧席は16、料金は無料。複写は一枚30円で可能だが、協会員以外への貸出は行っていない。1998年6月以降受入の和書と1997年3月以降受入の洋書が閲覧室内の専用端末で検索可能である。それ以前の資料については、閲覧室内にある目録カードで検索できる。職員は7名。このうち5名の職員が交替で口頭、電話、FAXでのレファレンスに応じている。金融機関の変遷についての問い合わせが多いため、当館の科学技術・経済情報室でも開架している『本邦銀行変遷史』を1998年に出版し、研究者等への便宜を図っている。

またホームページ上では、利用方法や案内図の他、受入新刊書のリスト、国内銀行と海外中央銀行発行の定期刊物の記事情報を過去1年分公開している(これらのリストと記事情報は全国銀行協会の月刊誌『金融』にも掲載されている)。

(<http://www.zenginkyo.or.jp/library/>)

館内には、閲覧席を取り囲むように金融機関発行の刊物や図書が並んでいる。また、壁際には天井まで届く書架に統計書や金融関係の資料がびっしり排架されている。

金融関係の調べものをする時、銀行について調べたい時にぜひ利用したい図書館である。

2003年12月16日訪問

(科学技術・経済課 光延真理)